

秋田港・船川港・能代港に係る要望

地域の暮らしと経済を支える
秋田の港湾整備を目指して

平成 29 年 7 月 11 日

秋田商工会議所	会頭	三浦	廣巳
秋田港振興会	会長	三浦	廣巳
秋田みなと振興会	会長	矢吹	達夫
一般社団法人秋田県貿易促進協会			
	会長	齊藤	健悦
船川港港湾振興会	会長	西宮	公平
男鹿市商工会	会長	加藤	義光
能代商工会議所	会頭	広幡	信悦
能代港湾振興会	会長	齊藤	滋宣

秋田県内の重要港湾、秋田港、船川港、能代港の整備につきましては、平素よりご配慮を賜り厚く御礼申しあげます。

秋田では、経済発展著しい日本海対岸や東南アジア諸国の成長を取り込み地方創生を実現するため、環日本海の経済交流を推進し、諸外国との貿易拡大に地元企業と行政が一体となって取り組んでおります。これを支える最も基礎的な社会資本として県内各港湾の整備を着実に推進することが肝要です。

また、秋田県におけるクルーズ船の寄港について、平成 29 年度は 27 回と過去最高の寄港が見込まれておりますが、クルーズ船の寄港は港の直背後地の地域のみならず、広域での観光振興や活性化に大きく寄与するものと認識しております。当県では平成 29 年 3 月に「あきたクルーズ振興協議会」を設置し、今後、行政と民間が一体となったクルーズ船の誘致や受入に関する取組みを展開してまいります。港を拠点とした観光振興による地域経済の活性化を図るうえで、クルーズ船の受入環境を改善するための港湾施設の整備を促進することが必要と考えます。

加えて、秋田の各港は、発電所、LNG 基地、国家石油備蓄基地等の立地によりエネルギー供給拠点としての役割を果たしてきました。更に能代石炭火力発電所の発電施設の増設、秋田港への新たな火力発電所の立地計画、能代、秋田両港での洋上風力発電施設の立地計画等が進捗しており、日本を支えるエネルギー拠点としての重要性が増し、これを支える港湾の役割も重くなっています。

港湾は、地域の経済社会のみならず我が国の社会活動を支える重要な任務を担っておりますことから、港湾内の静穏度の確保を始めとした必要な施設の整備を進めるとともに、平素からの維持管理により機能を保持し続けることが不可欠です。

このために必要な港湾関連予算を十分に確保いただきますよう強く要望いたします。

東日本大震災においては、秋田県の各港に入った支援物資が太平洋側に輸送され、被災地の復旧復興に役立ちました。地域の防災力の強化とともに、大規模災害時の広域的対応のためにも日本海側、秋田県の各港を防災拠点として活用するべきと考えます。また、今後日本海沖で想定される地震津波に備えた港湾背後地の人命・財産を守る津波対策施設整備、発災時の対応を確実にするための各港における耐震強化岸壁の整備や、緊急物資等の貯蔵、保管の拠点としての機能を高めるための埠頭用

地の増設が必要と考えます。

このような港湾の機能を最大限に活用するためには、各産業・観光・防災拠点等を結ぶ港湾を核とした交通ネットワークの構築が重要であり、特に秋田港と秋田自動車道を結ぶアクセス道路の整備が必要と考えます。

加えて、秋田を含む地方の港湾では港湾に大型船舶が入出港する際に必要な水先人が不足しています。港湾運営上、致命的な問題ですが、地方では水先人の高齢化が進み、その後継者が確保できないのが現状です。全国的な課題として水先人の確保について取り組む必要があります。

こうしたことを踏まえ、秋田港、船川港、能代港の各港で抱えております喫緊の課題を克服するため、今般、国のご協力を要望するものです。各港の課題を以下に挙げさせていただきます。

<秋田港>

秋田港は、国際コンテナターミナルの拡張により年間コンテナ取扱能力が 10 万 TEU に拡大し、環日本海交流を支える物流拠点としての益々の発展が期待されており、平成 28 年のコンテナ取扱量は過去最高の 79,461TEU を記録しております。

また、秋田県沿岸には多数の風力発電施設が設置されており、発電施設に関する建設資材等の荷役に秋田港が活用されています。加えて、秋田港では新たに大規模な石炭火力発電所や洋上風力発電施設の建設が予定されており、エネルギー供給拠点としても更なる発展が期待されておりますことから、発電施設に関する物流の増加を見据えた港湾整備が望まれます。

更に、クルーズ船の寄港実績も増加傾向にあり、平成 29 年は内航外航合わせて 19 回の寄港が予定されております。現在、秋田県では地方創生拠点整備交付金及び国際クルーズ旅客受入機能高度化事業を活用し、クルーズ船旅客ターミナルの設置や、クルーズ船観光客を対象とした観光地までの臨時列車の運行等の受入環境の整備を積極的に推進することとしております。

このように秋田港は、物流、エネルギー産業、観光の面で活発な動きが見られます。

また、秋田港は、苫小牧東港と新潟港、敦賀港とを結ぶ定期フェリー航路を有しており、平成 28 年度は乗客 52,912 人、貨物輸送のトラック

28,892 台が利用しております。今年に入り、運航会社である新日本海フェリー(株)では、別航路を就航する船舶 2 隻を新調しましたが、船舶の高速化により喫水が深くなっていることから、今後の安定した寄港回数確保に向けて、新規格のフェリーでも入港できる水深の確保が必要と考えます。

こうした動向を地域経済の発展につなげるためには、大型船舶や新規格フェリーの入港も見据えた航路泊地の水深確保、外郭施設や岸壁、クルーズ客の受入に関する施設等の港湾整備を着実に実施することが必要です。

また、エネルギー関連施設の建設・稼働等に伴い、港湾周辺における労働者の増加が見込まれることから、秋田港周辺企業と港湾労働者等の安全確保に向けた、漂流物防護柵や避難タワーの整備等の津波対策を早急に実施する必要があります。

また、秋田港では、平成 30 年度の港湾計画改訂を目標とし、今年度中に長期構想を取りまとめる予定としておりますが、長期構想をいかに港湾計画に位置付けるかが非常に重要と考えておりますので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

<船川港>

船川港は、男鹿半島に囲まれた地理的要因から静穏な海域を有し、これまで地域を支える港、避難港としてその役割を果たしてきました。

現在、男鹿市では、船川港臨港地区内に市内周遊観光の交流拠点として、複合観光施設の開業を平成 30 年 7 月に予定しており、背後地の観光施設等との連携により行っているクルーズ船の受入とも相まって、港周辺を核とした活性化が期待されているところです。

一方で、平成 28 年 8 月 3 日に北朝鮮が発射した弾道ミサイルが男鹿半島西方の排他的経済水域内に落下しました。その後もミサイルの発射は繰り返され、男鹿半島を始めとする日本海沿岸では、不測の事態に備えることが喫緊の課題となっております。本市では、本年 3 月に全国で初めて、国外から弾道ミサイルが発射され、領海内へ落下した想定に基づいた住民避難訓練が実施されております。

船川港は、港湾背後の北西部に位置する真山、本山により、冬季の北西の季節風による影響を受けない良港であり、不測の事態に際しては出動準備を揺動の少ない状態で完了し、速やかな対応が可能であることから、船川港の国関係官公庁船の拠点化が望まれます。

また、県内におけるクルーズ船の寄港回数は増加傾向にあるなか、船

川港には本年 5 月に外国船籍のクルーズ船が初入港するなど、交流人口の拡大をはじめとした、新たな可能性も生まれてきております。

しかしながら、外国船籍のクルーズ船寄港時には、ソーラスゲート内の保安制限区域への立入が制限されているため、客船接岸時でも埠頭に歓迎の賑わいが醸成されにくい状況です。

このことから、多くの方が外航クルーズ船を身近に感じ、更なる歓迎の盛り上がりが見られるよう、客船見学や乗船客との交流等を目的とした立入を可能とするよう、保安制限区域への出入り管理などに係わる保安規定についての見直しが課題となっています。

船川港は秋田県で公表した発生頻度の高い津波の高さに対し、県内の港湾区域で唯一、既設堤防の高さが設定津波の水位より低く、背後地の浸水面積が一番広いと想定されております。このため、港湾労働者等の安全確保に向けた対策は最も重要かつ急務であることから、津波対策施設としての漂流物防護柵及び津波避難タワー等の早期整備が必要です。

<能代港>

能代港は、県北部の海の玄関口であり、能代火力発電所及び今後の洋上風力発電等のエネルギー供給拠点です。また、秋田県北部エコタウン計画と連携強化することにより、リサイクルポートとして更なる地域経済の活性化に貢献することが見込まれます。

現在、能代火力発電所で発電施設の増設が進められており、年間を通じた安定した燃料供給のみならず、県北部一帯の物流の安定かつ安全を確保するため、能代港の静穏度向上と泊地の水深確保が急務です。また、周辺地域への陸上風力発電施設の建設や港湾区域内及び一般海域での洋上風力発電計画が進んでおり、風力発電施設のメンテナンスセンターも立地し、同地域がメンテナンス拠点として有望視されていることから、風力発電関係の設備・部品等の荷役及び保管が安定的に行える港湾施設の必要性が高まっております。

能代港は洋上風力発電建設の有望地である北海道から東北・北陸地方の日本海沿岸地域の中心に位置しており、洋上風力発電の建設を効率的に進めるための港湾インフラやメンテナンス基地機能を集中的に整備することにより、地域経済の活性化が図られるとともに、地球温暖化の抑制、将来にわたっての安定的・経済的に望ましい電源構成にも資するものと考えます。

更に、近い将来、能代市から県北部地域を結ぶ高速道路の完成も見込まれ、地域物流の拠点港及び県北部地域のクルーズ船の玄関口としての港湾施設の充実が求められています。

これらを踏まえたうえで、県北部地域の活性化を図るため、能代港の将来構想を策定し、港湾整備を計画的に進めていくことが必要です。

以上を踏まえた要望事項を以下に取りまとめましたので特段のご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

<要望事項>

1. 各港共通

- 港湾関連予算の確保

2. 秋田港の整備

- 港内静穏度の確保を図る国直轄事業による外郭施設（防波堤）の整備促進
- クルーズ船受入環境整備への支援
- 港湾背後地の人命・財産を守るための津波対策施設整備への支援

3. 船川港の整備

- 国関係官公庁船の拠点化のための将来構想策定に向けた支援
- クルーズ船受入環境整備への支援
- 港湾背後地の人命・財産を守るための津波対策施設整備への支援

4. 能代港の整備

- エネルギー供給拠点である能代港における国直轄事業による外郭施設及び大森地区泊地（－13m）予防保全事業の整備促進
- 洋上風力発電施設建設に関連した港湾施設整備への支援
- 県北地域の物流拠点及びクルーズ船寄港等のための将来構想策定への支援